

ろんだん
佐賀



岩永 雅也さん

放送大学長

いわなが・まさや 1953年嬉野町生まれ。就学前に千葉転居。筑波大附属高—東京大卒—同大学院修了。大阪大、放送教育開発センターを経て2000年に放送大学教授、21年から放送大学長。専門は教育社会学。チョウ、馬、自転車、黒板塗装など趣味は雑多。千葉市。

先づ、タイのバンコクへ弾丸出張する機会があつた。その短い日程の中で、タイの最高学府チャラコン・コン大学大学院で日本の言語と文化を学んでいる学生諸君と交流する機会を得た。彼らに日本語学習の動機を聞くと、一様に「日本のアニメが好き」とか「日本のアニメを原語で楽しみたかった」といった答えが返ってきた。もちろん、大学の図書館には夏目漱石や大江健三郎、村上春樹といった文学者の著作も並び、学ばれていたが、日本語学習の入り口となると、その多くが日本のアニメに集中していたのが印象的であつた。

日本文化としてのアニメ

実際、「ドンピシャ」と「エヴァト」等々、海外な人気のアニメは十指に余るのである。

「デエンボール」
「アンゲリオン」
でレジエンド的
ニメ・シリーズ
る。「たかがア
うなけれ、今や
本文化の代表と
を確立している

絵(セル画、CG画等)に限らず、切り絵やシルエット、粘土などのほか、人形も素材となる。人形アニメーションは、人形の様態を一コマずつ撮影し、それを連続映写することで動画化するものである。現在のアニメーションの源流の一つがその人形アニメーションなのであ

ア) メーリシミンを戦後すぐ
に、また「桃太郎の海鷺」
のような完成度の高いアーティ
スト作品も戦中期に、それぞれ
発表している。持永が佐賀
に住んだのは西与賀小学校
校から旧制龍谷中学までの
8年間であったが、その当
時から美術的センスは抜群
で、将来はアニメーターに
なる夢を持っていたとい

れる」との少ない持続の事績であるが、その絵コンテ、台本、人形、カメラ、手記などの貴重な資料はすべて佐賀太学芸術地域デザイン学部・角博研究室のもとに集められ、整理・保管されている。日本のアニメ文化の一潮流を示す文化財としてより広く注目されてよい県の至宝である。

ルーツの一つが佐賀に

たハ・ヨンスも「アンパンマン」や「ジョジョの奇妙な冒険」を見て覚えたという見事な日本語を劇中で披露していたし、流ちような日本語を話す香港の民主活動家、周庭（アグネス・チヨウ）も、オタクを自認するほどニアーメが好きで、香港で人気の日本アニメから独学で日本語を学んだと公

言うまでもなく、アニメーション（ani-mation）の語を略した呼称である。無生物に命（魂）を吹き込む、といった原義を持つ。基本的に少しずつ様態を変えた静止画のコマを連続して見せることにより動画化した作品を指している。

その手法を戦中・戦後期にかけて開発・完成し、多くの作品を残した巨人が佐賀にルーツを持つ持永只人（1919～1999年）、そしてその協力者であり技法の完成者でもあった川本喜八郎、岡本忠成である。持永は「瓜子姫とあまのじやく」、「ちびくろさんぽ」のどらたいじなどの人形

持永はアニメーションの製作者となつた後、終戦直前に満州に渡つて活動を続けたが、終戦後も大陸に残り、中国のアニメーション映画製作体制の構築と人材育成に尽力して日中交流にも寄与した。後に帰国し、多くの後進も育てている。現在、佐賀県内でも語らう。